

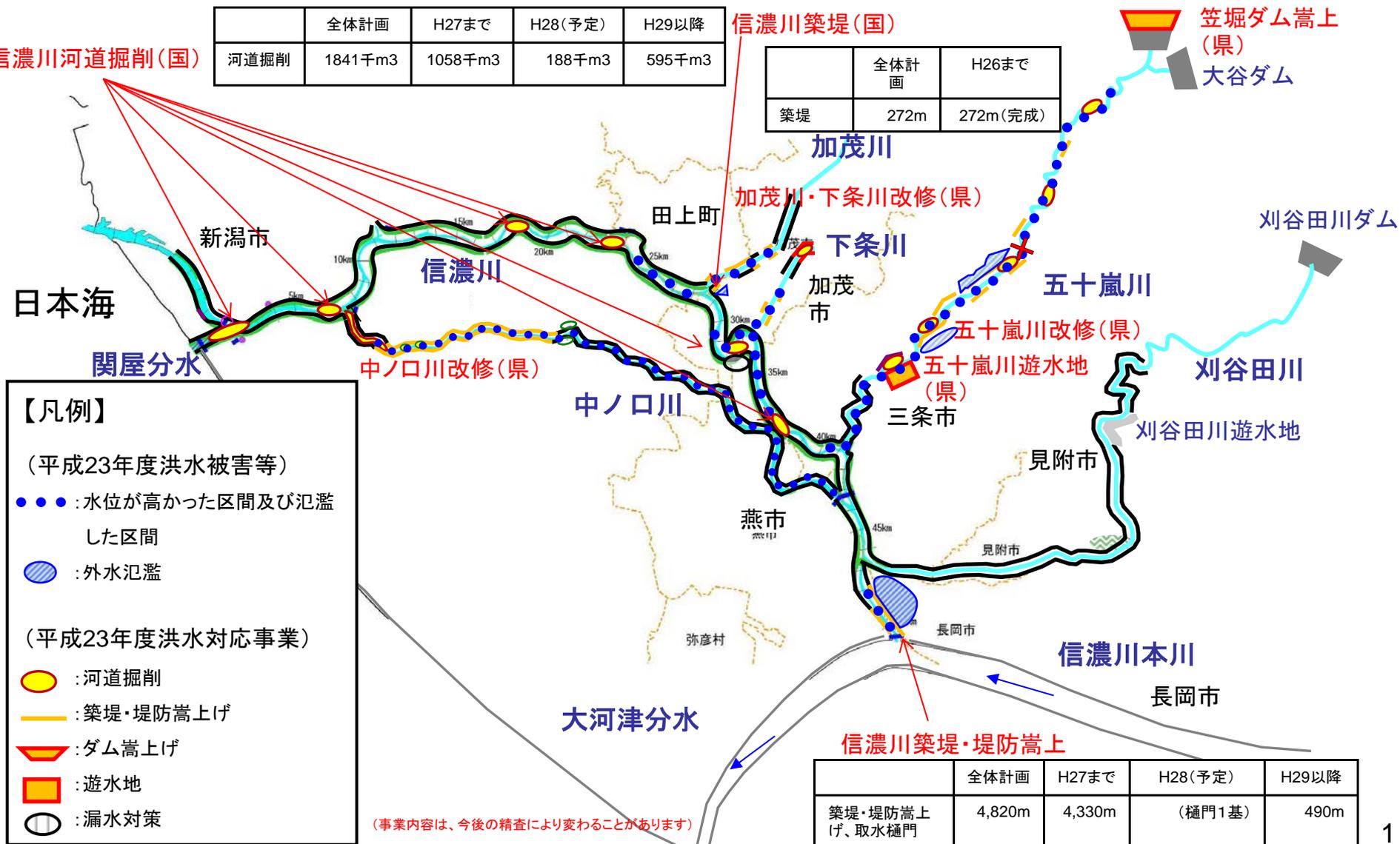
平成23年7.29水害と対応事業の概要

□ 信濃川下流域では、新潟県と連携して、平成23年に発生した7.29水害対応事業を実施しています。

	全体計画	H27まで	H28(予定)	H29以降	
信濃川河道掘削(国)	河道掘削	1841千m ³	1058千m ³	188千m ³	595千m ³

	全体計画	H26まで	
信濃川築堤(国)	築堤	272m	272m(完成)

	全体計画	H27まで	H28(予定)	H29以降
信濃川築堤・堤防嵩上げ、取水樋門	4,820m	4,330m	(樋門1基)	490m



○水害リスクの高い地域を中心に、スマートフォンを活用したプッシュ型の洪水予報の配信など、住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう住民目線のソフト対策に重点的に取り組む。

リスク情報の周知

○立ち退き避難が必要な家屋倒壊等氾濫想定区域等の公表
⇒平成28年出水期までに水害リスクの高い約70水系、平成29年出水期までに全109水系で公表



○住民のとるべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良
⇒「水害ハザードマップ検討委員会」にて意見を聴き、平成27年度内を目途に水害ハザードマップの手引きを作成

○不動産関連事業者への説明会の実施

⇒水害リスクを認識した不動産売買の普及等による、水害リスクを踏まえた土地利用の促進

事前の行動計画、訓練

- 避難に着目したタイムラインの策定
- 首長も参加するロールプレイング形式の訓練



⇒平成28年出水期までに水害リスクの高い約400市町村平成32年度までに全730市町村で策定

避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供

スマホ等で取得



洪水予報等の情報をプッシュ型で配信



自分のいる場所の近傍の情報

ライブカメラ

自分のいる場所

詳細な雨量情報

河川水位

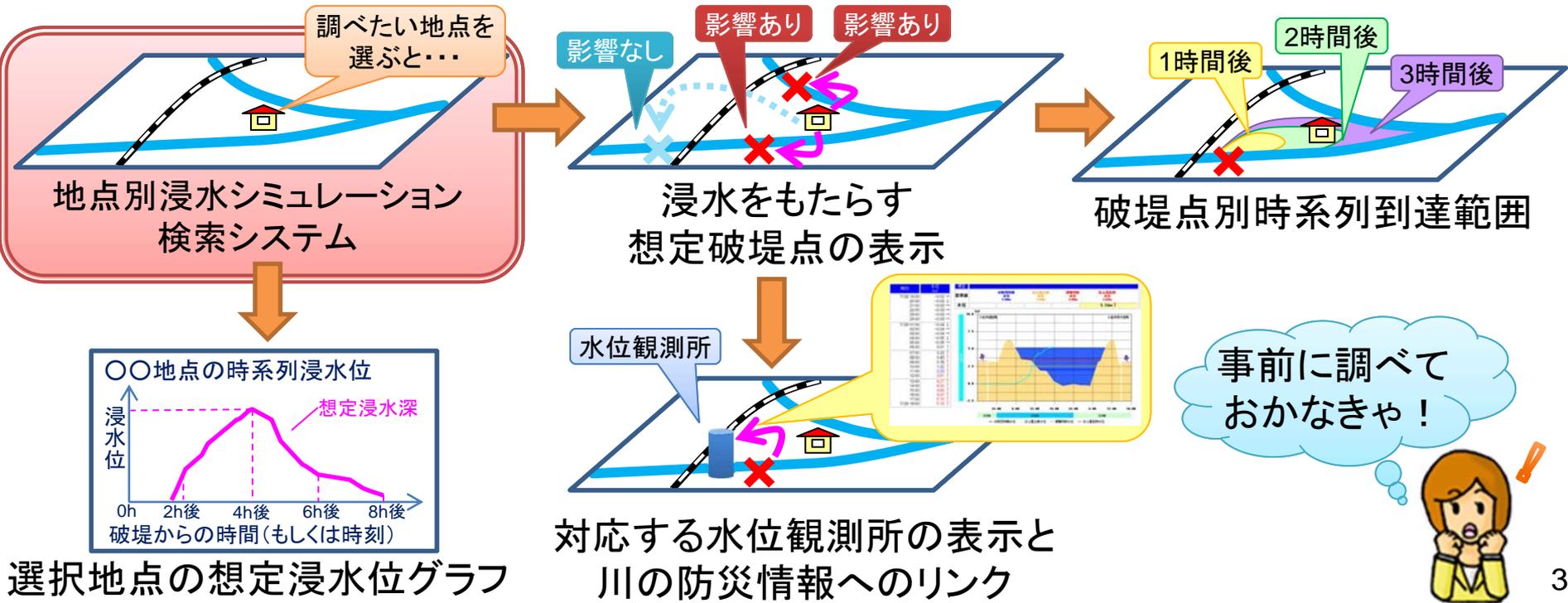
⇒平成28年夏頃までに洪水に対しリスクが高い区間において水位計やライブカメラを設置
・平成28年出水期からスマートフォン等によるプッシュ型の洪水予報等の配信を順次実施

※赤字部分現在、実施中

地点別浸水シミュレーション検索システム

- ① 浸水想定区域内の任意の地点に浸水をもたらす想定破堤点が見つかる。
- ② 想定破堤点毎に、破堤から氾濫流到達までの時間、最大水位発生時間、排水までの時間がわかる。
- ③ 任意地点に浸水をもたらす想定破堤点に関連する水位観測所が見つかる(洪水時、注視する必要のある水位観測所→川の防災情報へリンク)。

※ 新旧電子化ガイドライン両方の浸水想定区域に対応
(但し、旧電子化ガイドラインの浸水想定区域の場合、時系列データ保存が不統一のため、検索機能は一部限定される。)



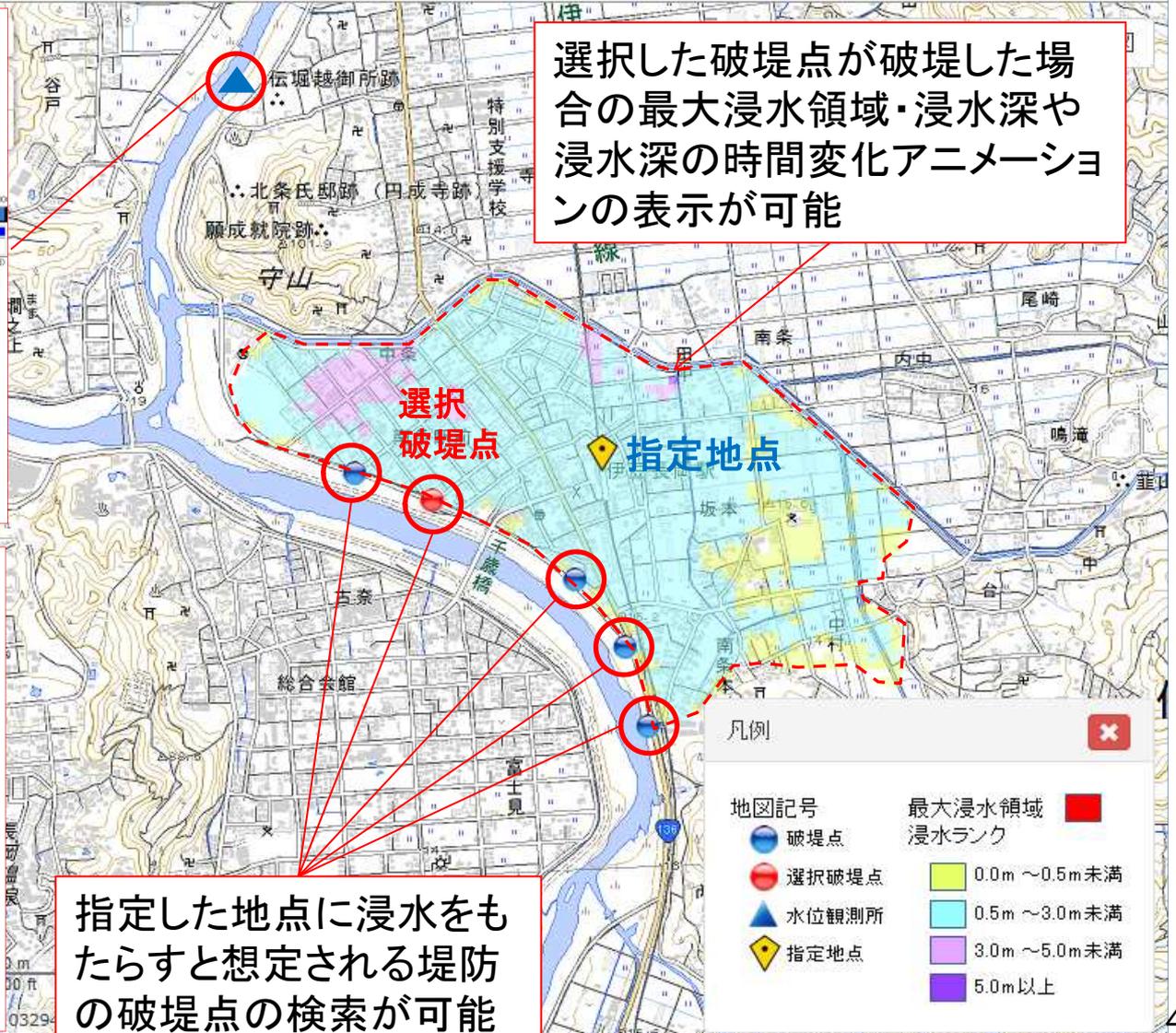
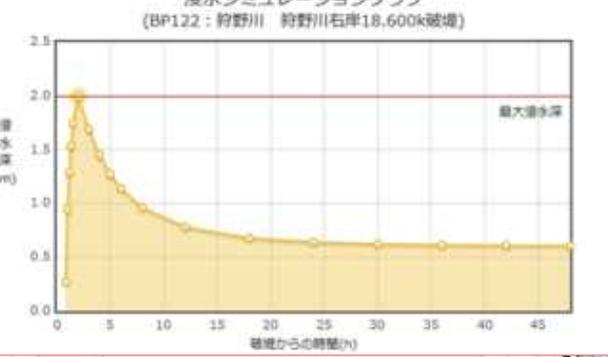
地点別浸水シミュレーション検索システム

<検索システムの主な機能>

出水時に監視すべき、河川の水位情報(テレメータ水位)の表示が可能



指定した地点における浸水シミュレーショングラフの表示が可能



選択した破堤点が破堤した場合の最大浸水領域・浸水深や浸水深の時間変化アニメーションの表示が可能

指定した地点に浸水をもたらすと想定される堤防の破堤点の検索が可能